<u>改正前</u> D-21 20落石予防エ ロープネットエ(ロープ掛工)

区分	工 種		Ą	i þ	規格値 単位明示がないのは(mm)	測定基準
20	ロープネットエ	施	土	皮り厚	CCM協会の表土厚規定	1工区当たり 5%又は最小本教
落石	(ロープ掛工) 	エ	(10)	制機の残長等で確認)(土	值内	3本以上
予		中確	砂部	用アンカーに適用)		
防		認認	削	 1長	定着長以上	1工区当たり 5%又は最小本数
I.			(岩	部用アンカーに適用)	(CCM協会の規定値以上)	3本以上
			Щ.	アンカー打込角度	平均斜面勾配に対して	1工区当たり 5%又は最小本数
			岩部用・	/ W INEAU	90°を基本とし、上向き	3本以上
			土砂部アンカー		15度、下向き40度以内	
			アンカ			マンナー かけた声い 人たっしゃ
			・共に適用	アンカー残尺長 	設計定着長を満たしている	アンカー打込角度に合わせて 確認。1工区当たり 5%又は
			開	・根入長(定着長)	残尺長(CCM協会の規定値以上)	最小本数3本以上
			施	縦横主ロープ間隔	管理基準軸	経横主ロープを、1施工箇所当た
			工管理基		2.0±0.2(m)を基本とし、	り最低縦 2 本横 1 本を測定す る。
		**-			スパン長が長くなる場合は、	
		施	準		監督員と協議の上定める。	
		I.			管理基準軸外	
		後			2.0+0.5(m)以内	
	,	確	出	縦横主ロープ間隔	2.0+0.5(m)以内	縦横主ロープの位置で、最低縦2本横1
		認	来形管理基			本を測定する。主ロープ間隔が、施工規
			管理			格値を超える場合は、アンカー及びロー プを増設し規格値内の施工が行われて
			基準			いるか確認する。
ĺ			—	縦横補助ロープ間隔	2.0+0.5(m)以内	主ロープの間隔に準じて、均等に割り付け
						ちれているか確認 ケース ケース ケース
			使用	金網重ね合わせ幅	-50以上	施工箇所1箇所以上測定する。
	,		しし			変化点毎に測定する。
			た場合	金網 縦・横 延長 	-500以上	冬川小咩に例たりる。
			"			

<u>改正後</u>



区分	工 種		項	目	規格値 単位明示がないのは(mm)	測定基準					
20	ロープネットエ	施	土衫	せり厚	CCM協会の表土厚規定	1工区当たり 5%又は最小本数 3本以上					
落石予防工	(ロープ掛工)	エ	(掘肖	機の残長等で確認)(土	値内						
		中確	砂部	用アンカーに適用)							
		認	削孔	L長 『用アンカーに適用)	定着長以上 (CCM協会の規定値以上)	1工区当たり 5%又は最小本数 3本以上					
			岩部用・土砂部アンカー 共に適用	アンカー打込角度	平均斜面勾配に対して 90°を基本とし、上向き 15度、下向き40度以内	1工区当たり 5%又は最小本数 3本以上					
				アンカー残尺長 ・根入長(定着長)	設計定着長を満たしている 残尺長(CCM協会の規定値以上)	アンカー打込角度に合わせて 確認。1工区当たり 5%又は 最小本数3本以上					
		施工後確	施工管理基準	縦横主ローブ間隔	管理基準軸 2.0±0.2(m)を基本とし、 スパン長が長くなる場合は、 監督員と協議の上定める。 管理基準軸外 2.0+0.5(m)以内	縦横主ロープを、1施工箇所当たり最低縦2本横1本を測定する。					
		認	出来形管理基準	縦横主ローブ間隔	2.0+0.5(m)以内	縦横主ローブの位置で、最低縦2本横1 本を測定する。主ローブ間隔が、施工規 格値を超える場合は、アンカー及びロー ブを増設し規格値内の施工が行われて いるか確認する。					
				縦横補助ロープ間隔	2.0+0.5(m)以内	主ロープの間隔に準じて、均等に割り付け られているか確認					
			使用し	金網重ね合わせ幅	100以上	施工箇所1箇所以上測定する。					
		•	た場合	金網 縦・横 延長	-500以上	変化点毎に測定する。					

区分	工種	項目	規格値 単位明示がないのは(mm)	測定基準	記 録 方 法	測定箇所等
23 舗 装	歷 青 安 定 処理路盤工	平 担 性	2.4 (標準偏差) 以内 2 車線のみ	平担性がアスファルト舗装要網 により行い車線ごとに実施す る。		
I		幅	片側-25以内 ただし全幅は設計値以 上	幅は、延長20mごとに1箇所の割合 で測定する。厚さは2,000m²毎に3 箇所の割合でコアーを採取して測定		
	アスファルト舗装工	厚き	1 車線 - 9以内 ただし、全体の平均値 - 3以内 2 車線 - 7以内 ただし、全体の平均値 - 2以内	し、測定値の平均が合格判定値の範 囲外に出た場合は、さらに3箇所 (2,000m ² 以上は4箇所) 追加しこ れが合格判定値の範囲内にあれば良 い。		
	(表層)	平 担 性	3m プロフィルメーター により検測 (σ) 2.4mm 以下 直離式(足付き) (σ) 1.75mm 以下	平坦性は舗装施工便覧 (H18) に よる。		1車線、2車線共に車線ごとに検測する。 ただし、維持工事、災害等の復旧箇所で小規模 なものは、平坦性の項目を省略することができ る。
	コンクリート 舗 装 工	幅 厚 さ	-25以内 -1以内 ただし、全体の平均値 -3.5以内	幅、厚さは、延長20mごとに1箇所 の割合で測定する。厚さは型枠設置 後車線の中心付近で測定する。 2,000m ² 毎に1箇所の割合でコアー を採取する。		
		平担性	コンクリートの硬化後 3mプロフィルメーター により検測 機械舗数(σ) 2.4mm以下 人力舗数(σ) 3.0mm以下	平坦性は舗装施工便覧 (H18) に よる。		1車線、2車線共に車線ごとに検測する。 ただし、維持工事、災害等の復旧箇所で小 規模なものは、平坦性の項目を省略するこ とができる。
		目 地 段 差	± 2	隣接する各目地に対して、道路 中心線及び端部で測定。		

<u>改正後</u>



区分	I.	種	項		目	規格値 単位明示がないのは(mm)	測	定	基	準	記	録	方	法	測	定	箇	所	等
23 舗 装		安定 路盤工	平	担	性	2.4 (標準偏差) 以内 2 車線のみ				舗装要綱 に実施す									
I		アスファルト舗装エ		幅		片側-25以内 ただし全幅は設計値以 上	で測定する	る。厚さ うでコア	は2,000 ーを採J	箇所の割合 0m²毎に3 取して測定									
	ト舗		厚		ż	1 車線-9以内 ただし、全体の平均値 -3以内 2 車線-7以内 ただし、全体の平均値 -2以内	囲外に出 (2,000m	た場合は ² 以上は・	t、さら 4 箇所)	判定値の範 らに3箇所 追加しこ にあれば良									
	【表層》	增)	平	担 1	生	3 m プロフィルメーター により検測 (σ) 2.4mm 以下 直就式(足付き) (σ) 1.75mm 以下	平坦性は含まる。	浦装施工 (更覧(H	118) ∤∑						推持工事	災害等	の復旧	する。 適所で小規模 ることができ
		コンクリート 舗 装 エ		幅		-25以内	の割合で	則定する。	。厚さに	とに1箇所 は型枠設置									
			厚		ŧ	-1 <mark>0</mark> 以内 ただし、全体の平均値 -3.5以内	後車線の中 2,000m ² を採取する	ほに1箇月		ける。 合でコアー									
			平担性			コンクリートの硬化後 3mプロフィルメーター により検測 機械舗設(σ) 2.4mm以下 人力舗設(σ) 3.0mm以下	平坦性は よる。	舗装施工	工便覧	(H18) に					ただし、	維持工事 のは、 ⁵	事、災 害	等の復	検測する。 旧箇所で小 省略するこ
			目	地段	差	± 2	隣接する 中心線及												